

金融高度化ワークショップ

地域金融機関における地域DX支援への取組みの現状と課題

地域の環境変化への有力な対応手段 —地域DX—

2022年11月29日

日本銀行 企画役 有田帝馬



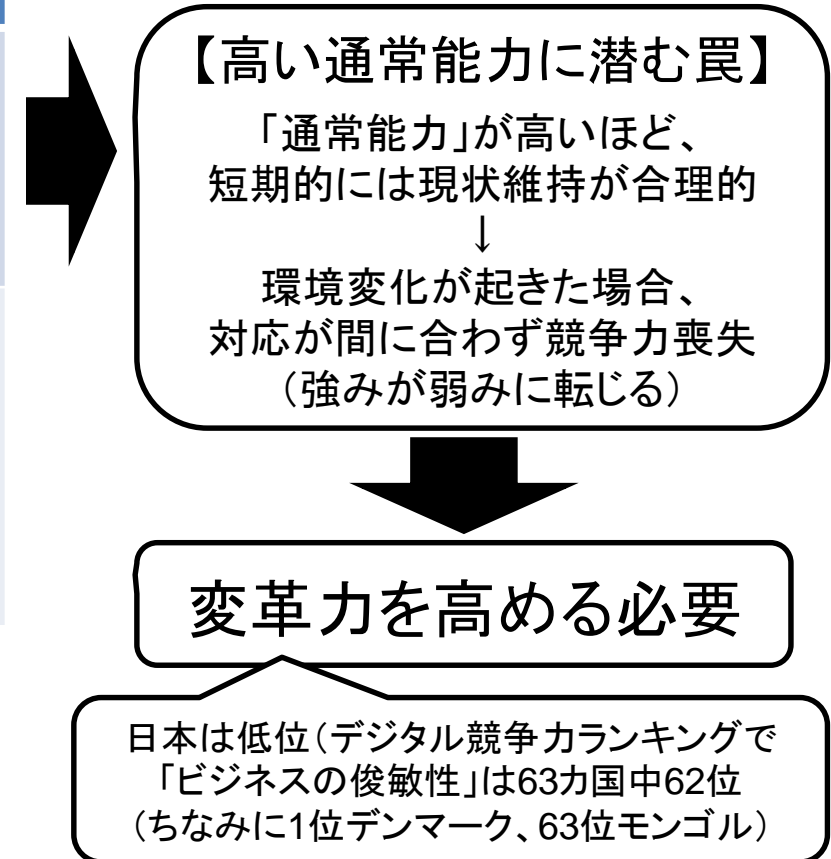
BANK OF JAPAN



ダイナミック・ケイパビリティ(=企業変革力)論(注)

— 環境変化に対応するための能力 —

企業の能力		特徴
通常能力	経営資源を効率的に利用、利益を最大化	<ul style="list-style-type: none"> コストコントロール 効率性の追求 「正しく行う」能力
企業変革力	環境や状況の変化に応じ、内外の経営資源を再構成し自己変革	<ul style="list-style-type: none"> 技術的機会やビジネス機会との一致 環境や状況の変化への対応 「正しいことを行う」能力



(注)カリフォルニア大学バークレー校ハース・ビジネススクール教授のデイヴィッド・J・ティース氏によって提唱された経営戦略論。企業は、どのようにすれば変化する環境や状況の中で、持続的に競争力を維持できるか、といった問題意識が背景になっている。

(出所)経済産業省「2020年版ものづくり白書」、国際経営開発研究所(IMD)「World Digital Competitiveness Ranking 2022」を基に作成



地域DXは、環境変化への有力な対応手段

地域の環境変化

- 人口減少・少子高齢化
- 過疎化・東京圏一極集中
- 地域産業の空洞化

デジタルを活用しての解決要素

- 地方に仕事を作る
 - 中小・中堅企業DX、スタートアップ支援、観光DX等
- 魅力的な地域を作る
 - 公共交通・物流・インフラ分野のDX等
- ...

地域DXは
有力な
対応手段



企業規模に関わらず、DX推進の意欲は高い

	DX推進指標の平均	
	現在値	目標値
大規模	2.3	3.8
中規模	1.6	3.4
小規模	1.7	3.5

企業規模に関わらず、
DXの目標は高い

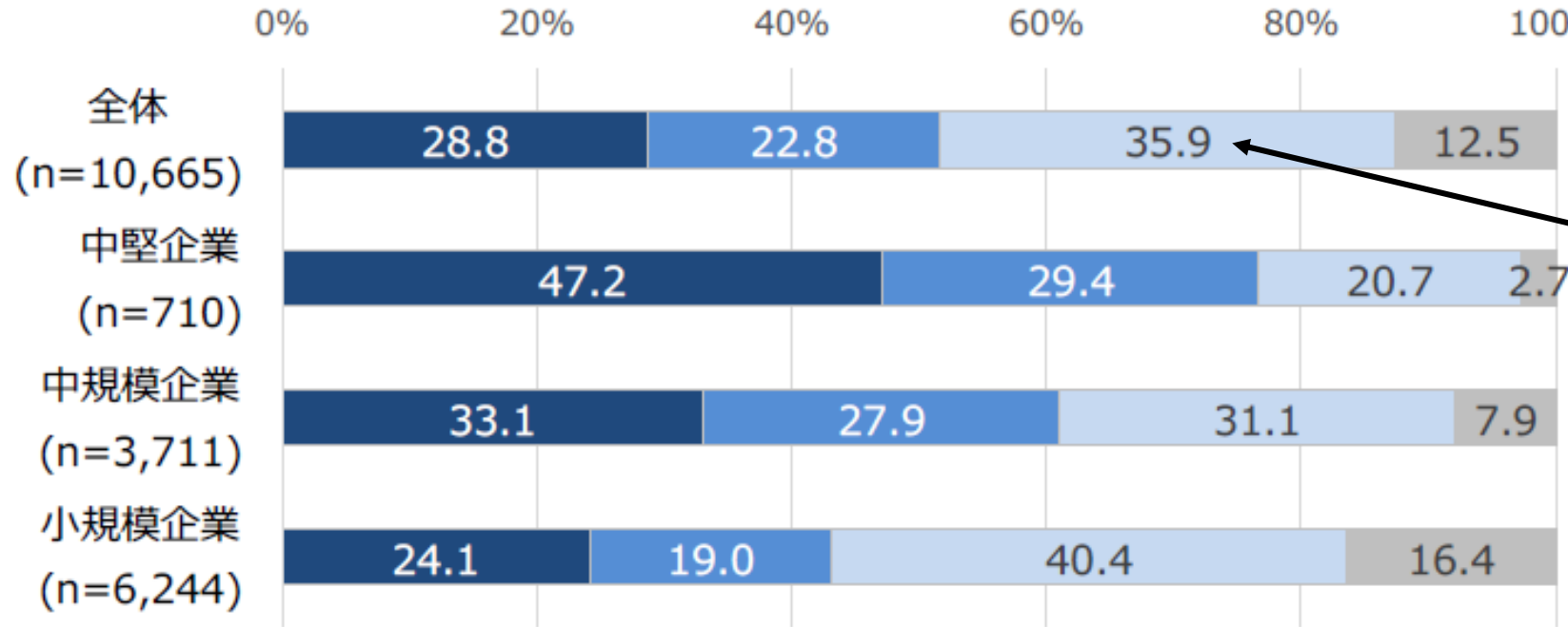
(参考)DX推進指標で評価した成熟度レベル

成熟度レベル	基本的な考え方(特性)
0	経営者は無関心か、関心があっても具体的な取組に至っていない
1	全社戦略が明確でない中、部門単位での試行・実施にとどまっている
2	全社戦略に基づく一部部門での推進
3	全社戦略に基づく部門横断的推進
4	定量的な指標などによる持続的な実施
5	デジタル企業として、グローバル競争に勝ち抜くことができるレベル



BANK OF JAPAN

具体的なIT化やデジタル化への関心も高い



3割強が
「IT化やデジタル化を
実施・推進していない」が
「実施・推進に関心」

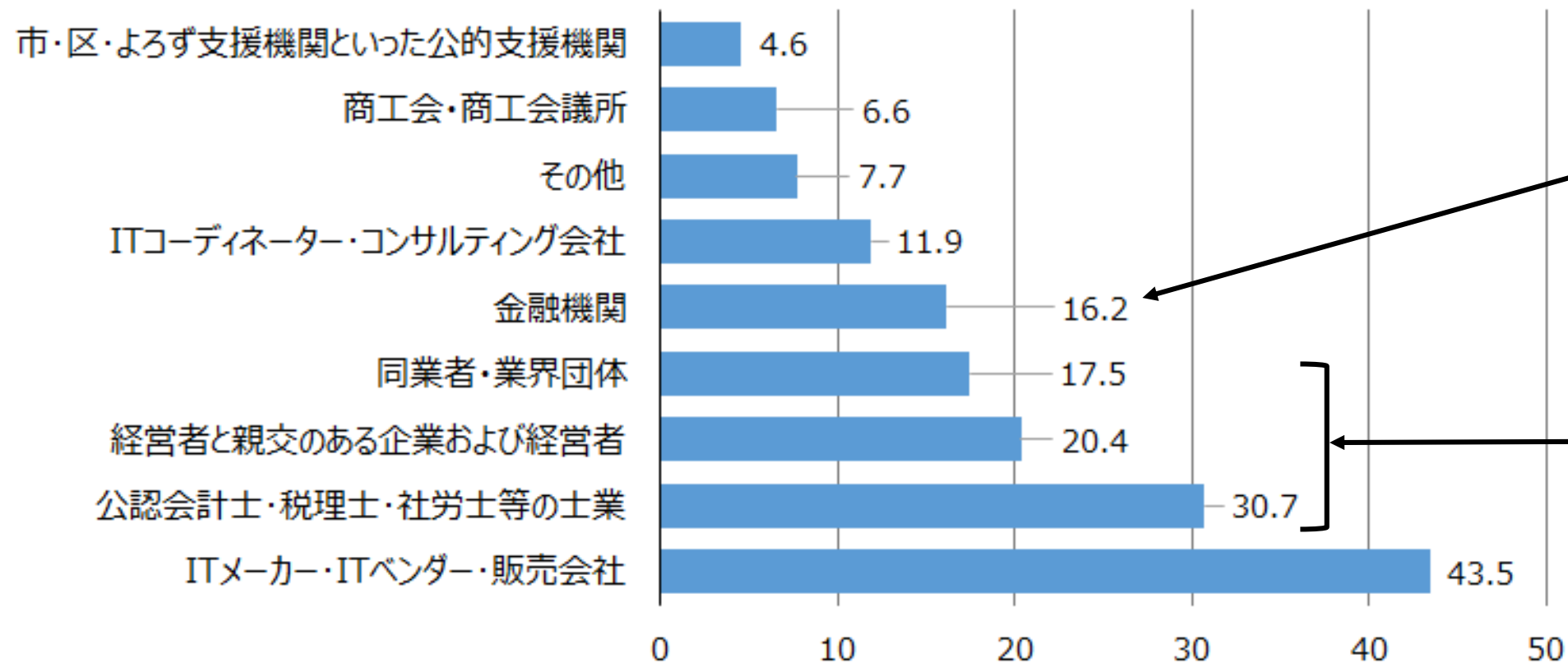
- 全社的にIT化やデジタル化を実施・推進している
- 部署単位でIT化やデジタル化を実施・推進している
- 現状、IT化やデジタル化を実施・推進していないが、今後は実施・推進に関心がある
- 現状、IT化やデジタル化を実施・推進しておらず、関心もない

(資料)金融庁「金融仲介機能の発揮に向けたプログレスレポート」(令和4年6月)



IT化を金融機関に相談する先が、一定割合存在

中小企業のIT・デジタル化の相談先（%、複数回答）



金融機関に相談する先が一定割合存在

相談先に困っている？



DX支援における金融機関の強み

1. 高い信頼
 - 長期の取引関係
 - 銀行の肩書
2. 取引先業務の理解
 - 預貸取引を通じたビジネスへの理解
 - 収益性評価の精度の高さ
3. 地域に根差した組織
 - 地域ネットワークにおける存在感

差別化が可能



本ワークショップの目的と構成

目的

- ・地域DX支援における、共通課題への取組みや解決策の共有

構成

- ・今回を含め、2023年上期中までに3回シリーズで実施する方向

テーマ(予定)

第1回	総論(現状と課題)
第2回	地域企業内の課題、営業店との連携
第3回	外部との連携、収益化(マネタイズ)



ワークショップでお願いしたいこと

「いい話を聞いた」で終わらず
何か行動に